



＜川西町＞“町の玄関口” 近鉄結崎駅前に「えきのキッチン」が開業 ～飲食店や雑貨店が日替わり出店し、町に活気を～

■近鉄結崎駅周辺の再生

川西町では、平成28年より町の玄関口に当たる「近鉄結崎駅」周辺をより魅力的で居心地の良い空間にしていくなため住民との話し合いを開始し、令和4年に近鉄と連携して駅舎の建替えと駅前広場の整備を完了した。新駅舎は、同町出身の建築デザイナーでJR西日本「WEST EXPRESS 銀河」などの意匠を手掛けた川西康之氏が監修。伝統建築の大和棟の古民家をモチーフに懐かしくも現代的で機能的な建物とし、バリアフリーのスロープを取付け利用者に優しい駅に変貌。

駅前広場は、現存する佐々木塚古墳を保存活用するとともに、能楽観世流発祥地とされる結崎にちなみ、能舞台を模したウッドデッキを設置した。



「えきのキッチン」外景

店内の様子

■「えきのキッチン」オープン

今年5月に町のにぎわいを創出するための中核施設「えきのキッチン」が新駅舎に併設オープンした。同施設は、川西町が運営母体となり、飲食や物販事業等のスタートアップを支援するために誰でも低料金で利用できるシェアキッチンとして開放している。行政が同様の施設を民間業者に委託管理することはあるが、駅に併設した場所で直接運営するケースは全国的にも珍しい。

同施設は調理場と食事スペースを備え、その場で食事を楽しむことができるほか、テイクアウトの利用も可能。食事スペースには、同町で150年続く材木店が製作したとちの木製のテーブルや、国内トップシェアを誇る町の特産“貝ボタン”がふんだんに散りばめられたカウンターを設置している。また、大部分がガラス張りのため、食事スペースから駅のホームや駅前広場が一望でき、開放感

が感じられる。

出店者は、スイーツやカフェ、お弁当販売や居酒屋等の飲食店に加え、トレーディングカードを扱う雑貨店やワークショップなど、業種も幅広い。出店者がバラエティに富んでいることもあり、出店内容は毎日替わり、おむすび屋は午前6時半から、居酒屋は午後5時から営業開始するなど時間帯も様々で、1日に3組営業する日もある。



出店チラシ



■出店者、運営者、町の声

出店者に話を伺うと、「利用料が低価格、出店チラシの作成も町がしてくれるので経費が安く済む。何といても行政が運営しているから安心して事業が始められる」という声が聞かれた。

町の担当課は、「食中毒事故を起こさないための対策や出店スケジュール調整などに細心の注意を払っている。そうした準備のかいもあって、当初の予想よりも出店の申込数が多く、町民からの評判も良いので手応えを感じている」と話す。

また、町の人に感想を尋ねると、「毎日、出店内容が変わるのでワクワクする。つつい立ち寄って中を覗いてしまう」と笑顔が溢れた。

今後、「えきのキッチン」が世代を超えた交流の場としてにぎわいが続き、町全体に活気と新たな結びつきが生まれることが期待される。

(岡村俊幸)

【お問い合わせ先】

川西町役場 総合政策課

〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎 28-1

TEL：0745-44-2213

Mail:yuuzaki_share@town.nara-kawanishi.lg.jp